

肺結核患者血清「カルチウム」及「クロール」含量ト 赤血球沈降速度トノ關係竝ニ「ツベルクリン」 注射ノ之ニ及ボス影響ニ就テ

金澤市若松療養所

倉 金 五 郎

本論ノ要旨ハ第11回日本結核病學會總會ニテ演說セルモノナリ。

目 次

緒 言	及「クロール」含有量トノ相關關係
實驗方法	第三章 「ツベルクリン」注射ノ血清「カルチウム」
實驗成績	及「クロール」含有量ニ及ボス影響竝ニ沈
第一章 結核患者沈降速度ノ成績	降速度ニ及ボス影響
第一項 對照健康體ノ沈降速度ノ男女ノ別	結 論
第二項 結核患者ノ沈降速度ト對照トノ比較	文 獻
第二章 結核患者ノ沈降速度ト血清「カルチウム」	

緒 言

赤血球沈降速度測定ガ Fahraeus⁽¹⁾ニ依リテ臨牀醫學ニ應用ノ途ヲ見出スヤ、沈降速度進ノ理由ニ關シテ數多クノ研究報告ハ實ニ枚舉ニ遑ナシト雖モ、其ノ本態ニ至リテハ、今尙歸一セザルモノ、如ク、或ハ單位容積内ノ血球數ヲ以テ其ノ主ナル原因ト見做シ (Abderhalden⁽²⁾, Büscher⁽³⁾)、或ハ「フィブリノゲン」増量說ヲ稱フルモノ (Starlinger⁽⁴⁾, Gram⁽⁵⁾)アリ、或ハ赤血球陰性荷電減少說 (Moral⁽⁶⁾)、血球凝集說 (Fahraeus⁽¹⁾, Linzenmeier⁽⁷⁾)、「グロブリン」増量說 (Alder⁽⁸⁾)等ヲ以テ互ニ讓ル處ナシ。然レ共恐ラク以上ノ諸說ハ何レヲ誤謬トモ稱ス可キモノニ非ズシテ、或ハ楯ノ兩面ヨリ之ヲ見タルモノ、或ハ個々疾病ノ種類ニ依ツテ夫々原因ノ異ナル

モノト見做シテ大イナル誤ナシト思惟セラル、處ナリ。而シテ肺結核ニ於テ著シキ赤血球沈降速度ノ速進ヲ來タスモノハ、文獻ニ徴スルニ、主トシテ上述單位容積内血球ノ減少(貧血ノ著シキ場合)ト「フィブリノゲン」ノ著シキ増加ノトニ職由スルコト最モ多キガ如シ。此處ニ於テ余ハ更ニ結核患者ニ於テ血清中ノ「カルチウム」及ビ「クロール」含量ガ赤血球沈降速度竝ニ病型、病竈ノ進行程度トノ間ニ如何ナル關係アラシカヲ知ラント欲シ、之ガ研索ヲ試ミ、併セテ「ツベルクリン」ノ皮下注射ガ是等血清鹽類及ビ沈降速度ニ如何ナル影響ヲ及ボスカニ就キテ究メントセリ。

實驗方法

検査材料、拙著「肺結核患者血清鹽類ノ消長ニ就テ」参照。

採血、對照及ビ患者共ニ早朝空腹時ニ肘靜脈ヨリ採血シ、一部ヲ以テ赤血球沈降速度測定用ニ供シ、他ヲ血清鹽類定量ニ供セリ。血清鹽類定量ノ爲ノ被檢材料ノ適宜ナル處置ニ就テ何レモ亦拙著「肺結核患者血清鹽類ノ消長ニ就テ」ニ既述セル所ナリ。

「ツベルクリン」注射ハ舊「ツベルクリン」原液ヲ生理的食鹽水ニテ 1 萬倍ニ稀釋セシモノヲ體重ニヨツテ 1 兎乃至 1.5 兎、前日午後 2 時、上膊ノ皮下ニ施行シ、注射後ノ採血ハ注射ノ翌朝 8 時ヲ以テナセリ。

血清「カルチウム」定量、拙著「肺結核患者血清鹽類ノ消長ニ就テ」參照、

血清「クロール」定量、前者同様。

沈降速度測定、Westergren⁽⁹⁾氏法ヲ基礎トシタルモノニシテ、即チ 3.8%ノ枸橼酸「ナトリ

ウム」水溶液 0.4 兎ヲ尖底試験管ニ注入シ、之ニ採取セル血液ヲ迅速ニ駒込「ピペット」ニテ 2 兎吸ヒ上ゲタルモノヲ注入混和シ、之ヲ沈降速度用硝子管ノ 20 糎マデ吸ヒ上ゲ沈降速度用臺ニ立テ、直ニ攝氏 37 度ノ孵卵器内ニ靜置シ、15 分、30 分、60 分、90 分、2 時間、3 時間、5 時間、8 時間、12 時間、24 時間、ノ經過ヲ觀測セリ。溫度ノ沈降速度ニ影響アルコトハ先輩諸氏 (Fahraeus⁽¹⁾, Ley⁽¹⁰⁾, Oettingen⁽¹¹⁾, 村上及山口⁽¹²⁾, 竹林⁽¹³⁾, 長嶋⁽¹⁴⁾)ノ實驗ニヨリテ明ナリ。成績表ニハ沈降速度ヲ S.G. トシテ、2 時間目ノモノヲ cm ニテ表セリ (此時間ハ個人差ガ最モ強ク現レタル時期ニ相當セルヲ以テ選定セルナリ)。枸橼酸「ナトリウム」水溶液ハ每常作製後 1 週間以内ノモノヲ使用ス。

實驗成績

先ヅ血清鹽類含量及ビ血球沈降速度ニ關スル検査全成績ハ一括シテ之ヲ第 1 表、第 2 表、第 3 表、第 4 表ニ示サガ如シ。

各測定種目ニ就テ更ニ詳細ニ説明ヲ加ヘントス。

第 1 表 健康男子血清鹽類及沈降速度

姓名	性	年齢	NaCl (mg%)	Ca (mg%)	S. G. (cm)
坂 ○ ○ 三	♂	49	626.0	9.2	1.9
神 ○ 誠 ○	♂	27	611.3	9.6	2.9
○ 田 ○ 十 郎	♂	33	643.5	9.4	1.0
林 ○ ○ 郎	♂	34	614.3	10.6	1.3
○ 金 ○ 郎	♂	42	620.0	10.8	0.6
○ 澤 貞 ○	♂	20	617.2	9.6	1.9
矢 ○ 久 ○	♂	35	599.6	9.2	0.7
○ 原 ○ 三 郎	♂	40	602.6	9.6	1.8
山 ○ ○ 三 郎	♂	49	605.5	10.8	2.5
松 ○ ○ 太 郎	♂	32	596.7	10.2	0.5

第 2 表 健康女子血清鹽類及沈降速度

姓名	性	年齢	NaCl (mg%)	Ca (mg%)	S. G. (cm)
○ 村 ○ と	♀	36	620.0	9.6	4.7
北 ○ ○ つ い	♀	29	637.7	10.2	4.7
○ 藤 ○ 枝	♀	25	620.0	9.8	3.0

淀 ○ 子	♀	21	631.8	11.0	2.8
南 ○ 子	♀	20	608.4	10.6	2.4
○ 内 ○ 子	♀	46	590.9	10.2	4.8
○ 金 ○ 久 能	♀	34	620.0	9.2	4.5
○ 金 忠 ○	♀	18	608.4	9.4	3.3
谷 ○ 千 ○	♀	15	587.9	9.6	2.3
○ 村 操	♀	30	605.5	10.6	2.3

第 3 表 患者男子血清鹽類及沈降速度

姓名	性	年齢	NaCl (mg%)	Ca (mg%)	S. G. (cm)	ツルバン	病型	ガフキ
野 ○ ○ 次	♂	18	555.0	10.0	4.1	II	P	—
谷 ○ 吉	♂	35	579.2	9.6	3.2	III	P	5
○ 崎 ○ 雄	♂	19	579.2	9.4	5.9	I	P	—
原 ○ 雄	♂	20	599.6	9.6	4.2	II	P	—
○ 川 ○ 作	♂	21	593.8	8.6	11.2	II	E	3
○ 塚 ○ 光	♂	18	605.5	10.0	8.4	II	E	4
松 ○ ○ 男	♂	18	585.0	9.4	7.5	III	P	—
○ 木 ○ 喜 知	♂	22	599.6	9.2	10.0	II	E	8
○ 田 ○ 二	♂	29	588.0	9.8	5.7	III	E	7
架 ○ ○ 次 郎	♂	69	585.0	9.4	9.2	II	P	—
山 ○ ○ 三 郎	♂	30	573.3	9.2	11.4	III	E	7
○ 村 ○ 三 郎	♂	26	596.7	10.0	1.4	II	P	—
矢 ○ 金 ○	♂	18	590.9	8.8	11.1	III	E	3

○井 ○吉	♂	19	579.2	9.9	13.5	Ⅲ E	7
越 ○ ○明	♂	23	596.7	9.8	8.3	Ⅲ E	2
木 ○ 喜 ○	♂	24	626.0	10.0	7.0	Ⅱ E	2
○中 ○吉	♂	39	599.6	9.6	8.9	Ⅲ P	7
田 ○ ○夫	♂	22	587.9	10.6	4.0	Ⅱ P	3
○村 ○三郎	♂	52	608.4	10.2	6.1	Ⅲ P	6
石 ○ 心 ○	♂	26	585.0	10.0	1.8	I P	—
淺 ○ ○米	♂	18	585.0	10.0	11.2	Ⅲ E	5
○村 悌 ○	♂	35	605.5	10.0	8.9	Ⅱ P	3
○ 邊 正	♂	24	602.6	10.0	9.9	Ⅲ E	6
○田 ○雄	♂	31	608.4	10.0	4.8	Ⅱ P	—
吉 ○ ○夫	♂	20	605.5	10.8	10.4	Ⅲ E	8
高 ○ ○吉郎	♂	34	608.4	9.6	10.6	Ⅲ E	6
○村 ○次	♂	32	564.5	8.8	10.0	I E	—
森 ○ 三	♂	37	585.0	9.2	9.7	Ⅲ P	5
○村 茂 ○	♂	14	611.3	9.2	0.8	I P	—
清 ○ ○三郎	♂	45	561.6	9.2	10.5	Ⅲ P	6

第 4 表 患者女子血清鹽類及沈降速度

姓 名	性	年齢	NaCl (mg%)	Ca (mg%)	S. G. (cm)	ツルバン病型	ガフキ
谷 ○ 千 ○	♀	18	585.0	10.0	7.1	I P	—

○田 ○枝	♀	23	605.5	10.6	1.5	I P	—
○井 緑	♀	27	585.0	9.8	6.8	Ⅲ E	7
川 ○ ○どり	♀	17	585.0	8.8	10.2	Ⅲ E	—
○内 ○子	♀	32	620.0	9.2	9.0	Ⅲ E	3
種 ○ ○イ	♀	28	617.2	8.8	10.7	Ⅲ E	8
○村 ○子	♀	15	596.7	8.0	12.2	Ⅲ E	—
名 ○ ○ほる	♀	26	585.0	8.2	11.9	Ⅱ E	—
○田 ○久恵	♀	27	573.3	9.2	12.7	Ⅲ E	4
○根 靜	♀	27	585.0	9.2	10.2	Ⅲ E	5
井 ○ ○子	♀	24	620.0	10.4	5.6	I P	—
○本 ○イ	♀	18	605.5	10.4	5.0	I P	—
長 ○ ハ ○	♀	24	585.0	9.4	9.3	Ⅲ E	8
○橋 ○子	♀	26	620.0	9.6	7.4	Ⅱ E	6
○本 ○喜子	♀	20	579.2	10.0	3.7	I P	—
中 ○ ○津枝	♀	17	576.2	9.6	12.5	Ⅲ E	8
○口 ○子	♀	16	564.5	10.0	10.3	Ⅲ E	7
○川 ム ○	♀	27	579.2	8.8	5.7	Ⅲ P	1
宮 ○ ○子	♀	14	570.4	9.4	11.7	Ⅲ E	3
○本 貞 ○	♀	25	547.0	8.8	10.9	Ⅱ P	5
○野 ○よ	♀	21	596.7	10.8	2.2	I P	—

第一章 結核患者沈降速度ノ成績

第一項 對照健康體沈降速度ノ男女ノ別

余ノ健康體男子 10 例、女子 11 例ヨリ得タル成績ニヨレバ其ノ例數少キモ、先輩諸氏ノ所説ノ如ク、女子ハ男子ヨリモ沈降速度大ナルコトヲ表セリ(第 1、2、5 表参照)。

第二項 結核患者ノ沈降速度ト病型トノ關係

結核患者 51 例ノ實驗成績(第 3、4、5 表参照)ハ勿論健康體ニ於ケルヨリモ著シク速カナル沈降速度ヲ示シ居レリ。而モ病型トノ關係ハ第 6 表ニ示ス如ク、滲出型ニアリテハ増殖型ニ於ケルヨリモ明カニ大ニシテ病竈ノ進行程度ニ於テハツルバン氏 I、II、III 期ノ順ニ從ツテ沈降速度増進ヲ致セリ。又有菌者ハ無菌者ニ比シテ大ナル平均値ヲ示セリ。之ヲ文獻ニ徵スルニ Karl Mathe⁽¹⁵⁾ 氏ハ肺結核患者ニ於テ滲出型ハ増殖型ヨリモ沈降速度大ニシテ患部ノ大小ニ關セズト。又 Windrath u. Garnatz⁽¹⁶⁾ 氏等ハ停止型

ヨリ進行型、進行型ヨリ粟粒結核ニ於テ赤血球沈降速度大ナリト稱フ。又長嶋⁽¹⁴⁾ 氏ニ依レバ肺結核患者ノ赤血球沈降速度ハ健康者ノ其レヨリモ大ニシテ大體ニ於テ疾病ノ活動性ノ強弱ニ並行シ、病竈ノ廣狹、發熱ニ必ズシモ並行セズト。Kaminsky and Davidson⁽¹⁷⁾ 氏等モ肺結核ニ於テ病竈ノ活動性ト赤沈速度トノ間ニハ密接ナル平行アリト稱ヘタリ。

第 5 表 對照及患者ノ S. G. 度數分布

S.G.(cm)	對 照			患者 (男女)
	男	女	男女	
1	5		5	2
2	3	3	6	3
3	2	3	5	1
4				4
5		4	4	2
6				6
7				3
8				3

9				5
10				10
11				6
12				3
13				2
14				1
合計	10	11	21	51
平均	1.7	3.5	2.7	8.1

第6表 病型及病竈ヨリ觀タル S. G. ノ度数分布

2	3		3		3		
3			1	1		1	
4	1	3		4		3	1
5	1	1		2		2	
6	2		4	4	2	2	4
7		3		1	2	1	2
8		1	2	1	2	1	2
9		1	4	3	2	1	4
10		2	8	1	9	2	8
11			6	1	5		6
12		1	2		3	2	1
13			2		2		2
14			1		1		1
合計	8	13	30	23	28	19	32
平均	3.5	6.7	9.6	5.4	10.0	5.8	9.5

S.G.(cm)	ツルバン氏 病型			結核菌 (痰)	
	第一期	第二期	第三期	増殖	滲出
1	1	1		2	2

第二章 結核患者ノ沈降速度ト血清「カルチウム」及「クロール」含有量トノ相關關係

余ハ結核患者ヨリ得タル成績ニ因ツテ沈降速度ト血清「カルチウム」含有量トノ關係ヲ明カニセントシテ、其ノ相關表(第7表)ヲ作製シテ考察ヲ廻ラセルニ、大體ニ於テ血清「カルチウム」量ノ大ナルモノ程、沈降速度小ナル結果ヲ知ルコトヲ得タリ。即チ血清「カルチウム」含有量ト血球沈降速度トノ間ニハ逆相關關係存セリ。然ルニ更ニ進ミテ男女別ニ各々ノ相關表(第8、9表)ヲ作製セル處、濃厚ナル此相關關係ハ獨リ女子患者ニ於テノミ認メラル、モノニシテ、男子患者ニ於テハ殆ンド著シキモノヲ認メ得ザルコトヲ知ルニ至レリ。

之ヲ文獻ニ徵スルニ村上及山口⁽¹⁾、上原⁽¹⁰⁾等ハ内科の疾患ニ、中山及下井⁽¹⁹⁾氏等ハ妊婦ニ於テ赤血球沈降速度促進セルモノニアリテハ、其ノ

血清「カルチウム」ノ減少ヲ見シト云ヒ、竹林⁽¹³⁾氏ハ家兎ニ「クロールカルチウム」ヲ注入實驗ノ結果、赤血球沈降速度ハ減退セシト云フ。

余ノ得タル結果ニ從ヘバ血清「カルチウム」量ノ減少ハ獨リ女子ニ於テノミ赤血球沈降速度ニ關係ノ深キモノ、而モ獨リ妊婦ノミニ限ル可ラズシテ、女子肺結核症ニ於テモ亦同様密接ナル關係アルコトヲ知ルコトヲ得タリ。即チ余ノ此成績ハ赤血球沈降速度ノ理由ニ關スルーツノ有力ナル知見ヲ得タルモノトシテ特筆スルニ値スルモノト信ゼラル。

更ニ余ハ沈降速度ト「クロール」含有量トニ關シテ同様、表ヲ作製シ、之ガ相關係數ヲ算出シタレドモ、遂ニ何等密接ナル關係ヲ認ムルコト得ザリキ。

第7表 男女患者ニ於ケル Ca 量ト S. G. トノ相關關係

cm (mg%)	S.G. (Ca)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
		-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	n _r	n _{ry}	n _{ry} ²
8.0	-8												1			1	-8	64
8.2	-7												1			1	-7	49
8.4	-6																	
8.6	-5											1				1	-6	36
8.8	-4					1					2	3				6	-30	96

第 9 表 男子患者ニ於ケル Ca 量ト S. G. トノ相關關係

Ca (mg%)	S.G. (cm)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
		-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	n _r	n _{ry}	n _{ry} ²
8.0	-8																	
8.2	-7																	
8.4	-6																	
8.6	-5											1				1	-5	25
8.8	-4										1	1				2	-8	32
9.0	-3																	
9.2	-2	1									2	1				4	-8	16
9.4	-1					1				1	1					3	-3	9
9.6	0			1	1					1		1			1	5		
9.8	1					1					1					2	2	2
10.0	2	1	1		1	1		1	2	1	1	1				10	20	40
10.2	3					1										1	3	9
10.4	4																	
10.6	5				1											1	5	25
10.8	6										1					1	6	36
	n _r	2	1	1	3	1	3	1	2	3	7	5			1	30	12	188
	n _c x	-16	-7	-6	-15	-4	-9	-2	-2		7	10			5	-39		
	n _c x ²	128	49	36	75	16	27	4	2		7	20			25	389		

$\sum(x^2) = 338.2$

$\sum(y^2) = 183.2$

$\sum(xy) = 74.4$

$r = 0.298 \pm 0.029$

第三章 「ツベルクリン」注射ノ血清「カルチウム」及「クロール」含有量ニ及ボス影響竝ニ沈降速度ニ及ボス影響

「ツベルクリン」注射ノ血清「カルチウム」量、「クロール」量ノ増減ニ及ボス影響ハ共ニ對照ト患者例トノ間ニ何等差異ヲ認ムル能ハズ (第 10、11、12、13 表参照)。唯赤血球沈降速度ニ於テ

「ツベルクリン」注射後健康例ニ會テ見ザル著シキ増進又ハ遲滯ヲ示スモノアリ (第 12 表、第 13 表中太線ヲ記セルモノ)、然レドモ其ノ何が故ナルカヲ明カスルコトヲ得ズ。文献ニヨルバ

第 10 表 健康男子ノ「ツベルクリン」注射ノ影響

姓 名	性	年齢	注射前後	NaCl (mg%)	前後ノ差	Ca (mg%)	前後ノ差	S. G. (cm)	前後ノ差
坂 ○ ○ 三	♂	49	前	626.0	+ 2.9	9.2	+ 0.6	1.9	- 0.3
			後	628.9		9.8		1.6	
神 ○ 誠 ○	♂	27	前	611.3	-13.6	9.6	+ 0.4	2.9	- 0.7
			後	596.7		10.0		2.2	
○ 田 ○ 十 郎	♂	33	前	643.5	-23.5	9.4	+ 0.8	1.0	+ 0.4
			後	620.0		10.2		1.4	
林 ○ ○ 郎	♂	34	前	614.3	- 8.7	10.6	- 1.0	1.3	+ 0.6
			後	605.5		9.6		1.6	
○ 金 ○ 郎	♂	42	前	620.0	+11.8	10.8	- 0.8	0.6	- 0.1
			後	631.8		10.0		0.5	

第 11 表 健康女子ノ「ツベルクリン」注射ノ影響

姓 名	性	年齢	注射 前後	NaCl (mg%)	前後ノ差	Ca (mg%)	前後ノ差	S. G. (cm)	前後ノ差
○ 村 ○ と	♀	36	前後	620.0 626.0	+ 6.0	9.6 9.4	- 0.2	4.7 3.6	- 1.1
北 ○ つ い ○	♀	29	前後	637.7 614.3	-23.4	10.2 10.0	- 0.2	4.7 4.5	- 0.2
藤 ○ 枝	♀	25	前後	620.0 602.6	-17.4	9.8 9.6	- 0.2	3.0 3.2	- 0.2
碓 ○ 子	♀	21	前後	631.8 608.4	-23.4	11.0 9.0	- 2.0	2.8 2.6	- 0.2
南 ○ ○ 子	♀	20	前後	608.4 611.3	+ 2.9	10.6 9.8	- 0.8	2.4 3.0	+ 0.6

第 12 表 男子患者ノ「ツベルクリン」注射ノ影響

姓 名	性	年齢	注射 前後	NaCl (mg%)	前後ノ差	Ca (mg%)	前後ノ差	S. G. (cm)	前後ノ差
○ 野 ○ 次	♂	18	前後	585.0 599.6	+13.6	10.0 10.2	+ 0.2	4.1 3.2	- 0.9
谷 ○ 吉	♂	35	前後	579.2 605.5	+26.3	9.6 9.9	± 0	3.2 2.7	- 0.5
○ 崎 英 ○	♂	19	前後	579.2 593.8	+14.6	9.4 10.2	+ 0.8	5.9 4.1	- 1.8
原 ○ 雄	♂	20	前後	599.6 617.2	+17.6	9.6 9.6	± 0	4.2 8.0	+ 3.8
○ 川 ○ 作	♂	21	前後	593.8 576.2	-17.6	8.6 9.6	+ 1.0	11.2 10.2	- 1.0
○ 木 ○ 喜 知	♂	22	前後	590.9 602.6	+11.7	9.4 10.0	+ 0.6	10.0 7.2	- 2.8
○ 塚 ○ 光	♂	18	前後	593.8 596.7	+ 2.9	10.0 9.4	- 0.6	8.4 8.4	± 0
松 ○ 武 ○	♂	18	前後	596.7 596.7	± 0	10.0 10.6	+ 0.6	7.5 5.0	- 2.5
○ 田 ○ 二	♂	29	前後	567.5 567.5	± 0	9.8 10.4	+ 0.6	5.7 5.4	- 0.3
越 ○ ○ 三 郎	♂	26	前後	614.3 602.6	-11.7	10.0 9.8	- 0.2	1.4 1.0	- 0.4
山 ○ ○ 三 郎	♂	30	前後	573.3 573.3	± 0	9.2 8.8	- 0.4	11.4 11.5	+ 0.1

第 13 表 女子患者ノ「ツベルクリン」注射ノ影響

姓 名	性	年齢	注射 前後	NaCl (mg%)	前後ノ差	Ca (mg%)	前後ノ差	S. G. (cm)	前後ノ差
○ 村 ○ 代	♀	18	前後	585.0 608.4	+22.4	10.0 10.2	+ 0.2	7.1 5.3	- 1.8
○ 田 ○ 枝	♀	23	前後	605.5 590.9	-14.6	10.6 10.0	- 0.6	1.5 1.5	± 0
○ 田 ○ 久 恵	♀	27	前後	573.3 555.8	-17.5	9.2 8.6	- 0.6	12.7 12.4	- 0.3
井 ○ ○ 子	♀	24	前後	620.0 596.7	-23.3	10.4 10.4	± 0	5.6 5.2	- 0.4
○ 本 ○ イ	♀	18	前後	605.5 608.4	+ 2.9	10.4 10.0	- 0.4	5.0 7.6	+ 2.6
曾 ○ ○ 音	♀	27	前後	585.0 605.5	+19.5	9.2 10.0	+ 0.8	10.2 10.5	+ 0.3

○ 橋 ○ 子 子	♀	26	前後	620.0 611.3	- 8.7	9.6 8.8	- 0.8	7.4 8.8	+ 1.4
○ 内 ○ 子 子	♀	32	前後	620.0 614.3	- 5.7	9.2 10.0	+ 0.8	9.0 10.4	+ 1.4
○ 本 ヤ ○	♀	28	前後	617.2 602.6	-14.7	8.8 10.2	+ 0.4	10.7 10.0	- 0.7

Mayrhofer⁽²⁰⁾、本郷⁽²¹⁾氏等ハ肺結核患者ニ「ツベルクリン」注射前後ニ於テ赤血球沈降速度ニ及ボス一定ノ結果ヲ見出シ得ザリシト云ヒ、又 Y. Stukowski⁽²²⁾氏ハ結核患者ニ「ツベルクリン」皮下注射ヲ施ス場合ハ沈降速度大トナリ、皮内注射ノ時ハ之レニ反スト云ヘリ、之ニ反シテ

K. Isetter⁽²³⁾氏ハ「ツベルクリン」注射後ニ促進スルコトヲ見ズト報告ス。

又「ツベルクリン」注射ノ血清鹽類ニ及ボス影響ニ關シテハ渡邊氏ハ「ツベルクリン」ノ皮内注射ニ於テ血清「カルチウム」ノ減少ヲ見タルコト屢々ナリト云ヘリ。

結 論

1、結核患者沈降速度ハ健康者ノ夫レヨリ速カニシテ、特ニ女子ニ於テ血清「カルチウム」量トノ間ニ逆相關關係アルコトヲ認メシム。之今日迄余ノ涉獵セル範圍ニ於テ何人ノ所説ニモ明カニセルモノヲ見出シ得ザルモノニシテ、正ニ一新知見トナシ得ベシト信ズ。

2、「ツベルクリン」注射ノ血清「カルチウム」及「クロール」含量竝ニ沈降速度ニ對スル影響ニ關

シテハ、沈降速度ニ於テ患者ハ健康人一比シ、著明ノ増進又ハ遲滞ヲナスコトアルヲ認ムル外ニ、如上ノ成績ノミヲ以テハ更ニ詳細ヲ分明スル能ハズ。

擱筆スルニ臨ミ、前所長谷野博士及ビ、現所長日置博士ノ懇篤ナル御指導及ビ、日置博士ノ御校閲ヲ深謝ス。

主要文獻

1) Fahraeus, Biochem. Zeitschr., Bd. 89, S. 355, 1918. 2) Abderhalden, Münch. med. Wochenschr., Nr. 31, 1921. 3) Büscher, Kl. Wochenschr., Bd. 14, 1921. 4) Starlinger, Biochem. Zeitschr., Bd. 14, 1921. 5) Gram, Arch. of Internal Med., Vol. 28, No.3, 1921. 6) Moral, Deut. med. Wochenschr., Nr. 3, 1923. 7) Linzenmeier, Zentralbl. f. Gynäk., Nr. 10, 1921. 8) Alder, Deut. Arch. f. Klin. Med., Bd. 126, 1918. 9) Westergren, 1) Acta. med. Scand., Vol. 54, p. 247, 1921. 2) Klin. Wochenschr., Nr. 27, S. 1359, 1922. 10) Ley, Zeitschr. f. d. ges. exp. Med., Bd. 26, 1922. 11) Oettingen, Biochem. Zeitschr., Bd. 114, S. 23, 1921. 12) 村上及山口, 東洋醫學雜誌, 第一卷.

S. 338, 大正十二年. 13) 竹林, 日本微生物學會雜誌, 第十九卷. 第五號. 大正十四年. 14) 長島, 結核, 第四卷. 第十及十一號. 大正十五年. 15) Karl Mathe, Zeitschr. f. Tuberkulose, Bd. 39, H. 4, 1924. 16) Windrath u. Garnatz, Zeitschr. f. Tbk., Bd. 40, H. 3, 1924. 17) Kaminsky and Davidson, Am. Rev. of Tbc., Vol. 26, No. 3, 1932. 18) 上原, 京都府立醫科大學雜誌, 第三卷. 第二號. 昭和四年. 19) 中山及下井, 慶應醫學, 第三卷. S. 905, 大正十二年. 20) Mayrhofer, W. K. Wochenschr., Nr. 28, 1926. 21) 本郷, 熊本醫學會雜誌, 第六卷. 第一號. 22) Y. Stukowski, Zeitschr. f. Kl. Med., Bd. 99, 4-6. S. 506, 1924. 23) K. Isetter, Beiträge z. Kl. d. Tbk., Bd. 66, H. 4, 1927.